

交換留学生定期レポート（9月）

人間科学部人間科学科

武信瑞生

7月31日にタイのバンコクに到着し、もうすぐ1ヶ月になります。交換留学先のタマサート大学では8月8日に1学期が始まり、現在履修している各授業を2~3回ほど受けたところです。

●タイでの最初の1ヶ月

8月の最初の1週間は留学生向けのオリエンテーションウィークで、キャンパスツアーや集会が行われたりしました。かなりの人数の留学生がおり、特にヨーロッパや東アジアから来ている学生が多いという印象です。皆基本的には英語で会話をし、学期が始まる前から留学生同士で交流を深めていました。また留学生1人に対し現地の学生1人がサポートしてくれるバディ制度があり、タイ人学生との交流も深めやすい環境となっています。バンコク内外へのショートトリップも数回催されており、留学生が最大限タイでの生活を楽しむことができるよう大学がプログラムを組んでくれています。

大学の手厚いサポートもあり、ありがたいことに短期間で知り合いが増えました。タイ人学生が実際にタイを案内してくれたり、留学生同士で情報を交換したりすることができるので、何一つ不自由なくバンコクで生活できていると思います。ただ、タイに慣れたと思いが緩んでいた私は、2週間目に屋台で麺料理を食べ食中毒になりました。タイは年中気温が高いにもかかわらず肉などの食材が常温で晒されていることが多いので、日本人は少し耐性をつける必要があると思います。食に関しては特にですが、普段生活する上で自分に危険を及ぼす可能性があることを予め回避するということが重要なと思います。生活基盤が整いすぎている日本では普段感じられない感覚なので少し怖いですし、人や物に対する不信感が募る時もありますが、それを受容しようとする自分は外国人なのだとは自覚する日々を送っています。自分が異文化に存在しているということが面白いです。

まだタイに来て1ヶ月で知らないことが多いので、これからもっと自分が生活するタイを知っていこうと思います。



タイ語の授業の様子



Tha Prachan Campus